

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年12月14日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	AUA Youth Forum	派遣先大学:	チュラロンコン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
参加した動機
以前から持続可能性について関心があった。加えて10ヶ国以上からの参加が見込まれ、自分が持っていない知見が得られたり、多くの国に友人を作ることが出来ると考えた。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
書類応募で、面接は無し。今回の会議のテーマは持続可能性であったのでそれに対して自分がどのように貢献できるか考えました。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
なし。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし。風邪薬程度は携帯した。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学指定の保険に加入。手続等は大学側が済ませてくれた。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラム期間がターム休みにあたるため、数個の授業は欠席したが、基本的には支障はなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

IELTS 7.0

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

前半は、持続可能性というテーマについて国連や学際的に高名な方、タイ企業の幹部などが講演を行った。それに対して参加者らは質問をする。後半からはチームに分かれて2030年の世界に向けて持続可能性というテーマの下で若者が出来ることというテーマのもとに最終プレゼンづくりを行った。日中の議論や夜部屋での議論を含めて話し合い、プレゼンを作成した。講演は刺激的であったし、タイならではの観点も含まれるなど参加したからこそ得られた知見もあった。プレゼンはつい数日前に出会った人と、時間に限りのある中作り上げるもので、自分の力が及ばない点を実感すると同時に、大変充実した時間であった。

②学習・研究面でのアドバイス

議論の場において基本的には自分が発言しなければ相手がフォローしてくれることは無い。たとえ多少自信がなくても積極的に発言していくと良いと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

大半の参加者が英語は流暢であったが、大半の参加者は非ネイティブかネイティブでも英米訛りではないこともあり、聞き取りに苦勞することがあった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の学生寮にあるゲストルーム。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学の寮に滞在し、開催地も徒歩圏内のため快適であった。気温は30度以上は常にある。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
大学指定の保険に加入。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃は先方が拠出(チケットを予約してくれる)。宿泊は大学の寮のゲストルームに滞在のため無料。食事も朝食と昼食は提供される。その他成田への往復運賃、夕食費、その他雑費のみかかる。1万円は要らない。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
会議がない夕方以降は、他の参加者らとバンコク内の観光に出かけた。最終日には飛行機の時間まで時間があつたので多少余裕をもって観光することが出来た。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
リエゾン制度をとっていて、各国の参加者に一人チュラロンコン大学の学生がつき、生活や観光などでサポートしてくれた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学の寮に滞在。すぐ近くにコンビニや喫茶店などがあり、生活に不自由はなかった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
各国から選抜された学生らとの交流、議論は非常に刺激的な時間であった。特に他大は持続可能性というテーマにより近い日本で言うところの理系の学生が多かったことで、自分の分野(法学部)と異なることも多く、彼らのキャリアへの考え方や世界の見方を始め、視野を広げてくれた。加えて英語力に関しては低くはないがやはりまだまだ議論をリードしたり効果的なプレゼンを行うにはほど遠く、今後とも継続的に学習していこうという決心へと繋がった。
②参加後の予定
全学交換留学に応募している。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

基本的には自身の出費もない一方で、10各国以上の国の優秀な学生と交流でき、さらに現地文化も味わえる。加えて少なくとも今年はターム休みに当たり授業への支障も最小限であった。是非参加すべきだと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

学部・研究科	学年	年	学期	月
【学部】	学部1	2009	A1	1
法学部	学部2	2010	A2	2
医学部	学部3	2011	S1	3
工学部	学部4	2012	S2	4
文学部	学部5	2013	W	5
理学部	学部6	2014	夏	6
農学部	修士1	2015	冬	7
経済学部	修士2	2016		8
教養学部	専門職1	2017		9
教育学部	専門職2	2018		10
薬学部	専門職3	2019		11
【研究科】	博士1	2020		12
人文社会系	博士2			
教育学研究	博士3			
法学政治学	博士4			
経済学研究科				
総合文化研究科				
理学系研究科				
工学系研究科				
農学生命科学研究科				
医学系研究科				
薬学系研究科				
数理科学研究科				
新領域創成科学研究科				
情報理工学系研究科				
学際情報学府				
公共政策学教育部				

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 12月 1日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	AUA Youth Forum	派遣先大学:	(チュラロンコン大学)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

2017年度に設立されたAUA(アジア大学連合)の枠組みでの学生フォーラムであり、今回はAUA加盟校であるタイのチュラロンコン大学にて各大学の幹部級会合と合わせて開催されました。ほぼ全てのプログラムがチュラロンコン大学の中で行われました。

参加した動機

フォーラムのテーマがサステナビリティであったため。私は東京大学でUT Sustainability という、大学のサステナビリティに関する委員会に属しており、元からこのテーマに興味を持っていました。この機会で、一般的にサステナビリティについて理解が深められることを期待し、また参加する各大学でどのような取り組みが行われているかを知る機会になるかと思い、参加を決めました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

短期のプログラムであったためか、参加することを決めてしまえば特に面倒なことはありませんでした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

短期プログラムのため必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

短期プログラムのため必要ありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側で指定された保険にのみ加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部の事務で職員の方と相談しましたが、特に何もありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFL95点程度ながら、就活で多忙だった夏の間はほとんど英語に触れていませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

フォーラムで仲良くなるであろう他大学の生徒たちのために、日本のお土産を持っていくと良いと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラム前半はサステナビリティに関連する講義を受け、後半はチームに分かれてワークショップ(それぞれのチームでサステナビリティに関連するプロジェクトを立案し、発表する)

②学習・研究面でのアドバイス

集まった学生たちが必ずしもサステナビリティに関する専門知識を有しているわけではなく、またプログラム自体も事前の知識を必要としているようではありませんでした。

③語学面での苦勞・アドバイス等

各国から参加してきた学生は皆さん英語が流暢で、あまり英語のできない自分は相当苦勞しました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

プログラム参加が確定した時点で、先方が全て用意してくださいました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

熱帯であり暑いですが、室内はひどく冷房が効いていて寒いです(これでサステナビリティがテーマなのだから、皮肉なものです)。食事も概ね全て先方が用意してくださり、またチュロンコン大学の学生で各大学から派遣された生徒の身の回りの世話や案内をしてくださる担当の方がいたので、非常に快適でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
体調を崩す方は周りに何人かいたので、暴飲暴食を避ける、体温調節のきく服を用意するなど、常識的な範囲では気をつけるべきだと思いました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
保険に3500円ほど、現地では予め両替した1万円で全て足りました。航空賃や宿泊費、朝食昼食は概ね先方が用意してくださいました。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
短期プログラムのため、自由時間はほぼありませんでした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
充実しており、プログラムの中で不自由なことはありませんでした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
寮のWi-Fiはあまり使い物にならなかったです。各々SIMカードは用意しておくといいでしょう。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
テーマであったサステナビリティについて。講義などを通しては、ほとんどタイの方(大学教員・研究者・国家ないし国際公務員)が登壇されたため、タイの国レベルでの取り組みについては学ぶところがありました。ただし、チュラロンコン大学の取り組みについてはほとんど説明がなかったように思います。参加した他大学の学生は、あまり大学内でのサステナビリティに興味があるわけではなさそうで、その点は少し残念でした。
②参加後の予定
引き続き大学と連携してサステナビリティに関する活動を行なっていきたいと思っています。プログラム後半のワークショップにおける意見交換などにおいて出てきた他大学の学生の声や様子などは、できれば参考にしていきたいなと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

大学生でなければこのようなプログラムに参加する機会もほとんどないと思うので、興味のわくものがあればしり込みせず積極的に申し込んでみるべきかな、と思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東京大学の環境報告書。実際にこの内容について現地で説明することはありませんでしたが、ワークショップの中で自分の大学においてどんな取り組みがなされているか、どんな状況を話すような機会がありました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



プログラム終盤、参加者で各国の衣装を着

学部・研究科	学年	年	学期	月
【学部】	学部1	2009	A1	1
法学部	学部2	2010	A2	2
医学部	学部3	2011	S1	3
工学部	学部4	2012	S2	4
文学部	学部5	2013	W	5
理学部	学部6	2014	夏	6
農学部	修士1	2015	冬	7
経済学部	修士2	2016		8
教養学部	専門職1	2017		9
教育学部	専門職2	2018		10
薬学部	専門職3	2019		11
【研究科】	博士1	2020		12
人文社会系	博士2			
教育学研究	博士3			
法学政治学	博士4			
経済学研究科				
総合文化研究科				
理学系研究科				
工学系研究科				
農学生命科学研究科				
医学系研究科				
薬学系研究科				
数理科学研究科				
新領域創成科学研究科				
情報理工学系研究科				
学際情報学府				
公共政策学教育部				

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 11 月 27 日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	AUA Youth Forum	派遣先大学:	チュラロンコン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input checked="" type="checkbox"/>	7. その他(大学院進学)		

派遣先大学の概要

タイのトップ大学であると同時に、東南アジアを代表する大学である。キャンパスはバンコクの都心に位置しており、どこに行くにも便利であると同時に、タイ随一の総合大学ということで非常に広大。

参加した動機

かねて環境分野に関心を持っており、東アジアから中東までアジア全域からの参加者ともに、アジアの環境問題に対して自分たちの問題として取り組むことは魅力的であると考えました。また、各国の多様なバックグラウンドに関心もありました。加えて、航空券・滞在費がかからず自己負担が最小限に抑えられつつ、貴重な経験ができるということもこのプログラムに惹かれた大きな要因の一つです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特に難しい点はありません。東京ーバンコク間のフライトが最終的に決定されるのが遅かったことは、気になる点として挙げてもいいかもしれません。ただ、チュラロンコン大学と運営者の方の指示に従って動けば、問題はないと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ありません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬を持参しました。現地でウイルス性胃腸炎とみられる表情に罹り、結果的にはこの常備薬に救われることになりました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外留学の際に必須となる東大の保険に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特にありませんが、ガイドブックのタイ語のあいさつ方法は目を通していました。タイ語の簡単なコミュニケーションを勉強していくと、現地の人とのやりとりが楽しくなると思います。プログラムは全て英語で行われるので、特に問題はありません。英語はIELTS7.5を取得していました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
日本の文化に関心を持ってくださる参加者が多く、お土産のような形で持参すると喜ばれるかもしれません。また、Cultural Partyという各国の文化を紹介するイベントがあったのですが、他国の参加者はフォーマルな民族衣装を持参していたので、もし着物や袴等があり荷物に余裕があれば、持参すると素敵だと思います。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
全5日間のプログラムでしたが、最初の2日はサステナビリティに関して様々な角度から講演を聞き、3日目にフィールドワーク、4日目・5日目にグループプレゼンテーションの準備と発表と、インプットとアウトプットのバランスが取れた興味深いプログラムでした。特に、グループプレゼンテーションでは、各参加者が無意識に前提としている事柄や価値観が微妙に異なっていることがあり、その点が非常に興味深かったです。
②学習・研究面でのアドバイス
5日間という短期プログラムであり、特別なアドバイスを差し上げることは難しいのですが、自然体で、そして積極的に他の参加者とコミュニケーションを取り、積極的に活動に参加することが大事なのではないかと思います。
③語学面での苦勞・アドバイス等
ディスカッションの際に、他のグループメンバーの話す内容の聞き取りが難しい場面がありました。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
チュラロンコン大学の学生寮に宿泊しました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
35°Cに迫る気温は、11月の日本の気候から行くとやはり厳しかったです。大学はバンコクの都心に位置しているので、生活にはまったく困りません。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
体調管理には気をつけようと思っていましたが、結局体調を崩してしまいました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券・滞在費はチュラロンコン大学持ちであったため、費用は発生していません。参加者同士で夜ご飯に出かけたり、遊びに行く際、そしてお土産代のみがかかるという形です。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特になし。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
特になし。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
チュラロンコン大学の学生メンバーが、生活面を中心に、こちらが恐縮するほどサポートしてくれました。不安を持つ必要はありません。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
Wi-Fiが学生寮では通じず、現地SIMカードを利用したテザリングを使わざるを得ず、通信データ量に気を使う必要がありました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
同じ環境問題にアプローチすると言っても、私自身の意見や思考が日本及び先進国の価値観を反映したもの、または専攻である法律・政治の考え方が中心になっていることを実感したことは大きな意義と言えると思います。その上で、異なる国家・経済状況、宗教など多様なバックグラウンドを持つ参加者と交流し、彼らの意見や考え方を学ぶことができたのは非常に新鮮でした。改めて、これほど多くのアジアの国から参加者を集めるプログラムは稀有なのではないかと実感しています。
②参加後の予定
引き続き法学部の3Aの授業に参加しています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

アジア一帯から参加する同世代の学生と交流を深め、プレゼンテーションに取り組む経験は、楽しく充実したものでした。これほどの国から参加し、自己負担の少ないプログラムはそうないと思うので、ぜひ積極的に参加してみてください！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



学部・研究科	学年	年	学期	月
【学部】	学部1	2009	A1	1
法学部	学部2	2010	A2	2
医学部	学部3	2011	S1	3
工学部	学部4	2012	S2	4
文学部	学部5	2013	W	5
理学部	学部6	2014	夏	6
農学部	修士1	2015	冬	7
経済学部	修士2	2016		8
教養学部	専門職1	2017		9
教育学部	専門職2	2018		10
薬学部	専門職3	2019		11
【研究科】	博士1	2020		12
人文社会系	博士2			
教育学研究	博士3			
法学政治学	博士4			
経済学研究科				
総合文化研究科				
理学系研究科				
工学系研究科				
農学生命科学研究科				
医学系研究科				
薬学系研究科				
数理科学研究科				
新領域創成科学研究科				
情報理工学系研究科				
学際情報学府				
公共政策学教育部				